

1. 略歴

- 1988年4月 東京大学教養学部文科3類入学
1992年3月 東京大学文学部第3類（語学文学）仏語仏文学専修課程卒業
1992年4月 東京大学大学院人文科学研究科修士課程（仏語仏文学専攻）入学
1993年10月 ストラスブール第2大学修士課程（近代文学）入学
1994年10月 パリ第7大学高等研究課程入学（～1995年9月 修了）
1996年3月 東京大学大学院人文社会系研究科修士課程（欧米系文化研究専攻）修了
1996年4月 東京大学大学院人文社会系研究科博士課程（欧米系文化研究専攻）進学
1996年10月 パリ第7大学博士課程（テキストと資料の科学）入学（～2004年12月）
1996年10月 高等師範学校外国人聴講生（～1997年7月）
1997年4月 日本学術振興会特別研究員（DC2）（～1999年3月）
2000年3月 東京大学大学院人文社会系研究科博士課程単位取得退学
2000年4月 日本学術振興会特別研究員（PD）（～2003年3月）
2005年1月 京都大学人文科学研究所 助教授
2007年4月 京都大学人文科学研究所 准教授
2008年8月 ライデン大学図書館スカリゲル・フェロー
2009年10月 パリ第1大学（哲学科）外国人研究員（～2010年9月）
2012年7月 パリ西大学博士号（仏語仏文学）取得
2019年9月 東京大学大学院人文社会系研究科 准教授

2. 主な研究活動（2019年度分～）

a 専門分野

フランス近現代思想

b 研究課題

- (1) フランスを中心とする18世紀西洋思想——レナル／ディドロ『両インド史』から出発して、啓蒙期の歴史叙述・政治思想・経済思想の交錯に焦点を当てる。
- (2) フランス20世紀思想——1960年代以降の構造主義・ポスト構造主義の諸潮流について、西欧近世思想史との関係ならびに同時代の左翼政治との関係に焦点を当てる。
- (3) 日本の近現代思想・批評——とくに西洋の同時代の思想との関連に焦点を当てる。

c 概要と自己評価

- (1) 『両インド史』批評校訂版共同ディレクターとして、この批評校訂版第三巻の刊行に関わった。現在、第四巻についても鋭意編集作業を進めている。『両インド史』に関しては、イエズス会パラグアイ布教区叙述についても、日仏両国語で論文を発表した。ほかに後期ディドロの政治思想の変遷について仏語で論文を発表した。
- (2) ミシェル・フーコーがディドロの『ラモアの甥』について論じた『狂気の歴史』の一章を、ヘーゲル『精神現象学』との対比において分析する論文を発表した。また、京大人文研在職中に開催されたフランスの六八年五月についての思想史的考察を行う連続講演会に論文を執筆し、論文集を編纂した。
- (3) アルチュセールの日本における初期の受容について論文を発表した。また、社会思想史学会では『社会思想史事典』をめぐるシンポジウムでコメンテーターを務めた。哲学会では、現代精神医学と哲学の関係について研究発表を行っている。

d 主要業績

(1) 編著

編著、王寺賢太・立木康介編、『〈68年5月〉と私たち』、週刊読書人、324頁、2019.4

Guillaume-Thomas Raynal, *Histoire philosophique et politique des établissements et du commerce des Européens dans les deux Indes*, t. III, dir. Anthony Strugnell, Gianluigi Goggi et Kenta Ohji, Femay-Voltaire, Centre international d'étude du 18^e siècle, 659 p., 2020.1

(2) 主要論文

王寺賢太「京大人文研のアルチュセール——〈68年〉前後」、前掲王寺・立木共編著、205-230頁、2019.4

Kenta OHJI, « Par-delà la volonté générale : le "concert des volontés" selon le dernier Diderot », dans Marie Leca-Tsiomis et Ann Thomson (éd.), *Diderot et la politique, aujourd'hui*, Paris, Société Diderot, p. 25-43, 2019.5

Kenta OHJI, « L'utopie barré : à propos des missions jésuites du Paraguay d'après l'*Histoire des deux Indes* », dans Lise Andries et Marc-André Bernier (éd.), *L'Avenir des Lumières/Future of the Enlightenment*, Paris, Éditions Hermann, p. 299-318, 2019.7

王寺賢太 「ヘーゲルを模倣するフーコー——『狂気の歴史』のラモアの甥論をめぐって」、『思想』no. 1145、p. 42-63、2019.9

王寺賢太 「「文明化」の方向転換—レナル/ディドロ『両インド史』のイエズス会パラグアイ布教区叙述をめぐって」、齋藤晃編『宣教と適応—グローバルミッションの近世』、名古屋大学出版会、466-514 頁、2020.2

(3) 学会発表

国内、王寺賢太、「『社会思想史事典』の／をめぐるとの問いかけ」、社会思想史学会第 44 回大会、甲南大学岡本キャンパス、2019.10.25

国内、王寺賢太、「〈ポスト 68 年〉の狂気と哲学」、哲学会第 58 回研究発表大会、東京大学文学部、2019.11.3

(4) マスコミ

「「68 年」から現在を問う」、『京都新聞』、2019.7.16

3. 主な社会活動

(1) 学会

日本 18 世紀学会幹事、2007 年～現在

国際 18 世紀学会幹事、2015.7～2019.6

(2) 学術委員

Diderot Studies (Université Laval, Canada) 日本通信員、2007 年～現在

Guillaume-Thomas Raynal, *Histoire philosophique et politique des établissements et du commerce des Européens dans les deux Indes* 批評校訂版 (Femay-Voltaire, Suisse, Centre international d'étude du 18e siècle) 編集委員、2013 年～現在、共同ディレクター、2016 年～現在

Cromohs (*Cyber Review of Modern Historiography*, Firenze University Press) Editorial Board メンバー、2014 年～現在

ENCRCRE (Édition Numérique Collaborative et CRitique de l'Encyclopédie de Diderot), Académie des Sciences (France) 編集チームメンバー、2016 年～現在